

おけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012」をめぐって、横野博史（岡山大）、秋澤忠男（昭和大）、山縣邦宏（筑波大）編。腎疾患・透析 最新の治療 2014-2016。東京：南江堂，2013。p.45-9.

2) 大野岩男。11.腎・尿路系の疾患 11-6.全身疾患と腎障害 2)痛風腎。矢崎義雄(国際医療福祉大)総編集。内科学。第10版。東京：朝倉書店，2013。p.1464-5.

V. その他

- 1) 大野岩男。(テーマ：薬物性臓器障害)薬物性腎障害。日本医師会生涯教育講座。東京，8月。
- 2) 大野岩男。(ランチョンセミナー)腎不全時の高尿酸血症治療。第43回日本腎臓学会東部学術大会。東京，10月。
- 3) 大野岩男。(ランチョンセミナーⅡ)尿酸代謝からみた心腎連関。第47回日本痛風・核酸代謝学会総会。神戸，2月。

精神医学講座

教授：中山 和彦	精神薬理学，てんかん学
教授：伊藤 洋	精神生理学，睡眠学
教授：中村 敬	精神病理学，森田療法
教授：宮田 久嗣	精神薬理学，薬物依存
准教授：須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学，てんかん学
准教授：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准教授：山寺 亘	精神生理学，睡眠学
講師：小曾根基裕	精神生理学，睡眠学
講師：小野 和哉	精神病理学，児童精神医学
講師：大淵 敬太	精神生理学，睡眠学
講師：塩路理恵子	森田療法，精神病理学
講師：館野 歩	森田療法，比較精神療法
講師：伊藤 達彦	総合病院精神医学，精神腫瘍学
講師：中村 晃士	精神分析的精神医学，児童思春期精神医学
講師：角 徳文	老年精神医学

教育・研究概要

I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

我々は、精神療法と精神病理学的研究、および児童精神医学分野の研究を施行している。我々は精神科外来における発達障害の治療システムの研究している。また、発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に関してその相違の研究を開始した。この結果、統合失調症に比して自閉症スペクトラムでは一つのことに集中を維持する機能は保たれるものの、いくつものタスクが加わると、注意・集中の維持が困難になる傾向があることが明らかになってきた。精神療法では、従来より研究してきたDBT（弁証法的行動療法）の日本での汎用化のための技法の開発とその実践、また自閉症に関する構造化治療法である日記療法を開発中である。我々の社会精神医学的研究チームはホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因について研究を施行している。この研究では、男性は、職場での過剰適応傾向がその完全主義的性格傾向を背景に強く、うつと結びつきやすいこと、一方女性では、関係性においてのとらわれが、完全主義的傾向を背景に、職場にても家庭においても展開し、疲弊することでうつと結びつきやすいことが、明らかになった。

II. 森田療法研究会

若手精神科医に向けた基本的な面接技法の研修プログラム・教材を、他学派の精神療法家と共同で開発している。また森田療法と“第三世代”の認知行動療法との比較研究を推進している。森田療法の緩和医療への応用についても、実践的研究を開始した。さらに今年度も強迫性障害のサブタイプに関する研究、社交不安障害の精神病理学的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究を継続した。

III. 薬理生化学研究会

基礎研究では、げっ歯類を用い1) 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法を用いた新規向精神薬のモノアミン神経伝達への影響に関する研究、2) 薬物依存の形成機序に関する研究、3) 薬物依存に関連する衝動行為の神経基盤に関する研究および、4) 薬物依存に対する抗渴望薬の開発に関する研究を行った(2, 3, 4はNTTコミュニケーション科学基礎研究所と専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究)。臨床研究では、1) 非定型抗精神病薬の不安、ストレス関連障害への効果に関する研究、2) positron emission tomographyを用いた抗精神病薬のドーパミン神経伝達に与える影響に関する研究(放射線医学総合研究所との共同研究)、3) 気分障害を診断する新規血液バイオマーカーの探索研究(ウイルス学講座との共同研究)、4) 修正型電気けいれん療法の奏功機序にかかわる遺伝子発現調節因子に関する研究、5) 月経関連症候群、非定型精神病、急性精神病の病態に関する研究を行った。薬理生化学研究会では、基礎と臨床を統合した研究を目指している。

IV. 精神生理学研究会

1) 臨床評価を踏まえた睡眠障害の治療ガイドライン作成および難治性の睡眠障害の治療法開発に関する研究、2) 慢性不眠症あるいはうつ病の不眠症状に対する認知行動療法の有効性に関する研究、3) 多回睡眠潜時測定(MSLT)所見からみた中枢性過眠症に関する臨床的検討、4) 客観的疲労評価測定による閉塞型睡眠時無呼吸症候群の重症度評価に関する検討などを継続あるいは新規に着手した。

V. 老年精神医学研究会

認知症患者や老年期の精神疾患患者に対して、脳画像検査と神経心理検査を行い、精神症状や社会認知障害の神経基盤を明らかにする一連の研究を行っ

ている。不安を伴うアルツハイマー病患者において、不安の強さは両側前部帯状回の血流低下および、右楔前部・下頭頂小葉の体積減少と関連することを明らかにした。また高齢の身体表現性障害の患者の症状は注意の障害や遂行機能障害・ワーキングメモリーの障害を有しており、遂行機能障害やワーキングメモリーの障害は症状の重症度と相関することを明らかにした。さらに、それらの精神症状や社会認知障害がどのような社会的インパクトを与え、生活上の不利益をもたらすかについて検討を行う予定である。

VI. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では、認知・行動・感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療(緩和ケア)では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

原発性消化器がんの術後せん妄のリスクファクターに関する研究を行っている。

VII. 臨床脳波学研究会

臨床的に興味深い例については随時報告を行ってきたが、本年度は反射性にてんかん発作が誘発され特異な臨床経過を示したてんかん例について考察を行った。また、てんかん合併妊娠例の臨床的検討を行い報告がなされた。その他、進行中ないし計画中の研究として、健常成人女性の月経周期中における脳波背景活動の変化、てんかん女性における各種性ホルモンの動態及びその電気生理的影響に関する研究あるいは精神症状を有するてんかん患者の背景脳波活動の定量化およびMRI画像定量解析が挙げられる。

VIII. 臨床心理学研究会

2013年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討を継続して行った。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、社会技

能訓練などのさらなる学習を行った。心理テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い（研究会）では、鈴木常元先生を招聘し、「自律訓練法の臨床における活用法」についてのご講演を賜り、「自律訓練法」の実際の臨床場面への応用を学ぶことができた。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2013年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、脳科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり、異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえ、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画するの必要を感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Suzuki M¹⁾²⁾, Ito H¹⁾, Kodaka F¹⁾, Takano H¹⁾, Kimura Y¹⁾, Fujiwara H¹⁾, Sasaki T¹⁾, Takahata K¹⁾, Nogami T¹⁾, Nagashima T¹⁾, Nengaki N¹⁾, Kawamura K¹⁾, Zhang MR¹⁾, Varrone A³⁾, Halldin C³⁾ (³Karolinska Institutet), Okubo Y²⁾ (²Nippon Medical School), Suhara T¹⁾ (¹National Institute of Radiological Sciences). Reproducibility of PET measurement for presynaptic dopaminergic functions using L-[β -(11)C] DOPA and [(18)F] FE-PE2I in humans. *Nucl Med Commun* 2014; 35(3) : 231-7.
- 2) Tagai K, Nagata T, Shinagawa S, Tsuno N, Ozone M, Nakayama K. Mirtazapine improves visual hallucinations in Parkinson's disease : a case report. *Psychogeriatrics* 2013; 13(2) : 103-7.

- 3) Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M (Tokyo Dome), Shibamoto Y (Mitsubishi Motors) Agata T, Nakayama K. Which stress does influence returning to work in Japan, inside or outside the workplace? *Iran J Public Health* 2013; 42(11) : 1207-15.
- 4) Nagata T, Shibata N, Shinagawa S, Nakayama R, Kuerban B, Ohnuma T, Arai H, Nakayama K, Yamada H. Genetic association between neurotrophin-3 polymorphisms and Alzheimer's disease in Japanese patients. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra* 2013; 3(1) : 272-80.
- 5) Nagata T, Shinagawa S, Tagai K, Nakayama K. A case in which mirtazapine reduced auditory hallucinations in a patient with Parkinson disease. *Int Psychogeriatr* 2013; 25(7) : 1199-201.
- 6) Yamadera W, Sato M, Harada D, Iwashita M, Aoki R, Obuchi K, Ozone M, Itoh H, Nakayama K. Comparisons of short term efficacy between individual and group cognitive-behavioral therapy for primary insomnia. *Sleep Biol Rhythms* 2013; 11(3) : 176-84.
- 7) Nagata T, Shinagawa S, Kuerban B¹⁾, Shibata N¹⁾, Ohnuma T¹⁾, Arai H¹⁾ (¹Juntendo Univ), Nakayama K, Yamada H. Age-related association between apolipoprotein E ϵ 4 and cognitive function in Japanese patients with Alzheimer's disease. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra* 2013; 3(1) : 66-73.
- 8) Adachi H¹⁾²⁾ (¹Osaka Univ), Shinagawa S, Komori K²⁾, Toyota Y²⁾, Mori T²⁾, Matsumoto T²⁾, Sonobe N²⁾, Kashibayashi T²⁾³⁾ (³Rehabilitation Nishi-Harima Hosp), Ishikawa T²⁾⁴⁾, Fukuhara R²⁾⁴⁾, Ikeda M²⁾⁴⁾ (²Ehime Univ, ⁴Kumamoto Univ). Comparison of the utility of the everyday memory test and the Alzheimer's Disease Assessment Scale-Cognitive part for evaluation of mild cognitive impairment and very mild Alzheimer's disease. *Psychiatry Clin Neurosci* 2013; 67(3) : 148-53.
- 9) Nagata T, Kobayashi N, Shinagawa S, Yamada H, Kondo K, Nakayama K. Plasma BDNF levels are correlated with aggressiveness in patients with amnesic mild cognitive impairment or Alzheimer disease. *J Neural Transm* 2014; 121(4) : 1-9. Epub 2013 Nov 20.
- 10) Shinagawa S, Nakamura S, Iwamoto M, Tsuno N, Shigeta M (Tokyo Metropolitan Univ), Nakayama K. Longitudinal changes in the government-certified index stage and requisite costs for long-term care insurance system among the community-dwelling demented elderly in Japan. 2013; 2013 : 164919.

- 11) Shinagawa S, Tsuno N, Nakayama K. Managing abnormal eating behaviors in frontotemporal lobar degeneration patients with topiramate. *Psychogeriatrics* 2013; 13(1): 58-61.
- 12) 石 岩¹⁾, 谷村厚子¹⁾, 品川俊一郎, 繁田雅弘¹⁾ (首都大学東京). 在宅高齢者の主観的健康感に関連する要因の文献的研究. *日保健科会誌* 2013; 16(2): 82-9.
- 13) 繁田雅弘 (首都大学東京), 角 徳文, 品川俊一郎. ドネペジル, ガランタミン, リバスタグミンのアルツハイマー型認知症に対する有効性の比較検討 国内第3相試験を統合した有効性の間接比較. *Geriatr Med* 2013; 51(9): 957-63.
- 14) 森 美加. 【“エビデンス”のある心理療法(1) - 手ごたえと限界と展開 -】境界性パーソナリティ障害への弁証法的行動療法(DBT)個人サイコセラピーにおける試み. *保健の科学* 2014; 56(2): 96-100.
- 15) 森 美加, 馬淵麻由子 (東京農工大), 酒井佳永 (跡見学園女子大), 鹿内裕恵¹⁾, 岩満優美¹⁾ (北里大), 飯嶋優子 (横須賀市立市民病院), 日高利彦 (善仁会市民の森病院), 亀田秀人 (慶應義塾大), 川人 豊 (京都府立医科大), 元永拓郎 (帝京大). 関節リウマチ患者の心理支援ニーズに関する研究 包括的プログラムの提案. *女性心身医* 2013; 18(1): 132-45.
- 16) 森 美加. 【精神科臨床場面における認知行動療法のいま】Dialectical Behavior Therapy (DBT: 弁証法的行動療法)の個人サイコセラピーにおける試み. *外来精神療法* 2013; 13(2): 15-8.
- 17) 湯澤美菜, 中村晃士, 中山和彦. やせ傾向からみる日本女性のアイデンティティ葛藤. *最新精神医* 2013; 18(5): 519-26.
- 18) 中村 敬. 精神科医にとっての精神療法の意味精神療法に対する精神科医の視座. *精神医* 2013; 55(9): 836-9.
- 19) 中山和彦. WHITE PAPER 女性の健康をめぐる新たな潮流 不安とうつ これまでとこれから. *White* 2013; 1(1): 44-7.
- 20) 中山和彦. 【非定型精神病の新しい診断基準】非定型精神病とカタトニア 女性・性が症候を規定する. *最新精神医* 2013; 18(4): 335-46.
- 21) 堀江阿澄, 小高文聰. 構造化された心理教育により慢性的な水中毒の改善がみられた統合失調症の1例. *社精医研紀* 2014; 42(1): 31-6.
- 22) 島田 斉¹⁾²⁾, 平野成樹¹⁾²⁾, 篠遠 仁¹⁾³⁾ (3神経内科千葉), 古川彰吾¹⁾²⁾, 江口洋子¹⁾, 高畑圭輔¹⁾, 小高文聰¹⁾, 藤原広臨¹⁾, 木村泰之¹⁾, 山田真希子¹⁾, 高野晴成¹⁾, 伊藤 浩¹⁾, 樋口真人¹⁾, 桑原 聡²⁾ (2千葉大), 須原哲也¹⁾ (1放射線医学総合研究所). レヴィ小体病におけるアミロイド沈着はアルツハイマー病様脳萎縮と関連する. *臨神経* 2013; 53(12): 1482.
- 23) 伊藤 浩¹⁾, 島田 斉¹⁾, 篠遠 仁¹⁾, 高野晴成¹⁾, 小高文聰¹⁾, 木村泰之¹⁾, 生駒洋子¹⁾, 関 千江¹⁾, 福村利光¹⁾, 須原哲也¹⁾ (1放射線医学総合研究所). [C-11] AZD2184による脳内アミロイド蓄積の定量測定. *核医* 2013; 50(3): S180.
- 24) 生駒洋子¹⁾, 木村泰之¹⁾, 高野晴成¹⁾, 小高文聰¹⁾, 藤原広臨¹⁾, 山田真希子¹⁾, 須原哲也¹⁾, 伊藤 浩¹⁾ (1放射線医学総合研究所). [11C] raclopride 連続ボラス投与法を用いたドーパミン放出量測定における安静時結合能の再現性の検討. *核医* 2013; 50(3): S200.
- 25) 木村泰之¹⁾, 白石貴博¹⁾, 生駒洋子¹⁾, 高野晴成¹⁾, 高畑圭輔¹⁾, 小高文聰¹⁾, 藤原広臨¹⁾, 菅野 巖¹⁾, 須原哲也¹⁾, 伊藤 浩¹⁾ (1放射線医学総合研究所). [C-11] FLB457による結合能測定における3PET装置の機種間差. *核医* 2013; 50(3): S201.

II. 総 説

- 1) Shinagawa S. Phenotypic variety in the presentation of frontotemporal lobar degeneration. *Int Rev Psychiatry* 2013; 25(2): 138-44.
- 2) 宮田久嗣, 石井洵平, 小高文聰. 【デボ剤治療の新たな視点】発病早期の患者への持続性注射剤治療の意義. *臨精薬理* 2014; 17(3): 313-22.
- 3) 小高文聰¹⁾, 須原哲也¹⁾ (1放射線医学研究所). 【統合失調症-病態解明と治療最前線-】統合失調症の分子イメージング. *日臨* 2013; 71(4): 572-5.
- 4) 谷井一夫, 中村 敬. 【精神障害のリハビリテーション】森田療法における神経症(不安障害)の治療とリハビリテーション. *総合リハ* 2013; 41(7): 637-2.
- 5) 中村 敬. 現代社会とうつ病 うつ病の森田療法. *最新医* 2013; 68(10): 2394-7.
- 6) 山寺 亘. 【精神科臨床場面における認知行動療法のいま】不眠症に対する認知行動療法. *外来精神医療* 2013; 13(2): 19-22.
- 7) 品川俊一郎, 繁田雅弘. 【認知症に対する薬物療法の課題】アルツハイマー型認知症の症状改善薬の開始時期について. *精神科治療* 2013; 28(12): 1545-9.
- 8) 石井辰弥¹⁾, 小高文聰¹⁾, 須原哲也¹⁾ (1放射線医学総合研究所). 【PETによる神経・精神疾患の分子イメージング】統合失調症. *PET Journal* 2013; 23: 13-5.
- 9) 山寺 亘. 【最新臨床睡眠学-睡眠障害の基礎と臨床-】不眠症「不眠症の診断・治療・連携ガイドライン」の要点. *日臨* 2013; 71(増刊5 最新臨床睡眠学): 292-6.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 沖野慎治, 中村晃士, 小野和哉, 杉原亮太, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 瀬戸光, 栗田真理, 中山和彦. 統合失調症およびPDDの“注意機能”に関する比較研究CATを用いて. 第109回日本精神神経学会学術総会. 福岡, 5月.
- 2) 中村晃士, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. (口演6: 精神科疾患) 多くの身体科を併診する発達障害患者の諸特徴. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 横浜, 6月.
- 3) 関口友美(千葉家庭裁判所), 品川俊一郎, 中村晃士, 藤原優子, 中山和彦. (口演10: 心身症など) 成人先天性心疾患患者が抱える心理的問題と彼らが描く将来展望. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 横浜, 6月.
- 4) 山寺 亘, 江藤亜沙美, 千葉倫子, 尾作恵理, 伊藤洋, 中山和彦. (ポスター1: 疾患研究・コンサルテーション・リエゾン) てんかんとして治療されていたインスリノーマの一症例. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 横浜, 6月.
- 5) 山寺 亘. (シンポジウム16: 不眠症に対する非薬物療法-認知行動療法と森田療法-) 不眠症に対する森田療法の実践. 日本睡眠学会第38回定期学術集会. 秋田, 6月.
- 6) 落合結介, 小堀聡久, 忽滑谷和孝, 伊藤達彦, 高橋直人, 河原秀次郎, 柳澤 暁, 中山和彦. 消化器がん患者の術後せん妄に影響を及ぼす精神医学的因子の研究(第1報). 第109回日本精神神経学会学術総会. 福岡, 5月.
- 7) 湯澤美菜, 小川佳那, 塚原準二, 稲村圭亮, 小堀聡久, 落合結介, 古川はるこ, 森田道明, 忽滑谷和孝, 笠原洋勇, 中山和彦. 身体疾患や長期入院などのストレス因子の存在に加え, 個室管理による拘禁反応の合併が疑われた癌患者の一例. 第18回千葉総合病院精神科研究会. 旭, 4月.
- 8) 稲村圭亮, 湯澤美菜, 塚原準二, 小堀聡久, 永田智行, 落合結介, 森田道明, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 角 徳文, 小川佳那, 中山和彦. 老年期身体表現性障害における認知機能障害. 第48回成医会柏支部例会. 柏, 7月.
- 9) 高木明子, 森 美加, 岩崎 弘, 伊藤達彦, 忽滑谷和孝. 精神疾患を併存する患者の一般病棟入院加療への精神科リエゾンチーム介入. 第26回日本総合病院精神医学会総会. 京都, 11月.
- 10) 忽滑谷和孝, 岡部 究, 杉田ゆみ子, 小堀聡久, 落合結介, 古川はるこ, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 田部 宏, 高野浩邦, 佐々木寛, 中山和彦. 出産を希望する精神障害者に対する無床総合病院精神科外来の現状と役割. 第26回日本総合病院精神医学会総会. 京都, 11月.
- 11) 古川はるこ, 小川佳那, 杉田ゆみ子, 稲村圭亮, 小堀聡久, 永田智行, 忽滑谷和孝, 長谷川譲, 栗田 正, 中山和彦. 脳ドッグにおける認知機能検査の役割-慈恵医大柏病院における3年間の実施状況から-. 第26回日本総合病院精神医学会総会. 京都, 11月.
- 12) 真鍋貴子, 伊藤達彦, 忽滑谷和孝, 中山和彦. プロナンセリンにより意欲が改善した統合失調症の5症例. 第26回日本総合病院精神医学会総会. 京都, 11月.
- 13) 平林万紀彦. (シンポジウム1: 心身医療における森田療法の実際) 疼痛性障害に対する森田療法. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 横浜, 6月.
- 14) 互 健二, 永田智行, 品川俊一郎, 角 徳文, 中山和彦. 脳血管性病変を伴う難治性うつ病に対してmirzapineが有効であった1例. 第28回日本老年精神医学会. 大阪, 6月.
- 15) 谷井一夫. 慢性うつ病の森田療法~入院治療を中心に-. 第31回日本森田療法学会. 徳島, 11月.
- 16) 中山和彦. (会長講演) 森田療法の成立に先立った「祈祷性精神病」の精神医学史的研究の意義. 第17回日本精神医学史学会学術講演会. 東京, 11月.
- 17) Nakamura K. Practice of Morita therapy. 8th International Congress of Morita Therapy. Moscow, Sept.
- 18) 中村 敬. 精神疾患と統合医療-うつ病をモデルとして-. 第17回日本統合医療学会. 東京, 12月.
- 19) 塩路理恵子, 中村 敬, 中山和彦. (セッションA: 森田療法の起源) 森田・丸井論争再考-臨床の視点から-. 第17回日本精神医学史学会学術講演会. 東京, 11月.
- 20) 塩路理恵子. (シンポジウム9: 精神障害と不安臨床) 森田療法から見る不安-社交不安障害(対人恐怖症)を中心に-. 第6回日本不安障害学会学術大会. 東京, 2月.

Ⅳ. 著 書

- 1) 山寺 亘, 伊藤 洋. 第2章: 主要な精神疾患 1. 眠れない(不眠と不眠症) 5. 原発性不眠症1: 説明と生活指導, 6. 原発性不眠症2: 睡眠薬を使うとき, 使い方とやめ方. 堀川直史(埼玉医科大)編. あらゆる診療科でよく出会う精神疾患を見極め, 対応する: 適切な診断・治療と患者への説明, 専門医との連携のために. 東京: 羊土社, 2013. p.34-9.
- 2) 稲村圭亮, 品川俊一郎. 第2章: 認知症の症候 認知症の症候について 1. 中核症状(認知機能障害) A. 記憶障害・見当識障害. 中島健二(鳥取大), 天野直二(信州大), 下濱 俊(札幌医科大), 冨本秀和(三重大), 三村 将(慶應義塾大)編. 認知症ハンドブック. 東京: 医学書院, 2013. p.28-35.
- 3) 稲村圭亮, 品川俊一郎. 第2章: 認知症の症候 認

知症の症候について 1. 中核症状（認知機能障害）
C. 視空間認知障害. 中島健二（鳥取大）、天野直二（信州大）、下濱 俊（札幌医科大）、富本秀和（三重大）、三村 将（慶應義塾大）編. 認知症ハンドブック. 東京：医学書院, 2013. p.40-6.

4) 中山和彦. 高齢者の靨心理学. 安藤一重¹⁾, 井上孝代（明治学院大）、大西 守（日本精神保健福祉連盟）、平野良子¹⁾（¹日本産業カウンセラー協会）編. 60歳からのルネッサンス：より輝きを求めて. 東京：学芸社, 2013. p.49-57.

V. その他

1) 谷井一夫. 書評 山根 寛著『臨床 作業療法－作業を療法としてもちいるコツ』. 精神療法 2014；40(1)：163.

2) 中山和彦, 川村 論. 【神経・精神疾患診療マニュアル】よくみられる精神疾患気分変調症. 日医師会誌 2013；142(特別2)：S289-90.

小児科学講座

教授：井田 博幸 先天代謝異常

教授：大橋 十也 先天代謝異常
(DNA 医学研究所に外向)

教授：浦島 充佳 臨床疫学
(分子疫学研究室に外向)

准教授：宮田 市郎 小児内分泌学

准教授：勝沼 俊雄 小児アレルギー学

准教授：和田 靖之 小児感染免疫学

准教授：加藤 陽子 小児血液腫瘍学
(輸血部に外向)

准教授：小林 博司 先天代謝異常
(DNA 医学研究所に外向)

准教授：斎藤 和恵 小児臨床心理学

講師：藤原 優子 小児循環器学

講師：斎藤 義弘 小児感染免疫学

講師：田知本 寛 小児アレルギー学

講師：秋山 政晴 小児血液腫瘍学

講師：小林 正久 先天代謝異常, 新生児学

講師：浦島 崇 小児循環器学

教育・研究概要

I. 代謝研究班

本年度も引き続きライソゾーム蓄積症（ムコ多糖症Ⅱ型、ボンペ病、ファブリー病）ならびに多発奇形、発達遅滞に関して研究を行い以下の成果を収めた。

1. ムコ多糖症Ⅱ型に関して

モデルマウスの造血幹細胞を標的としたレンチウイルスベクターを用いた遺伝子治療で中枢神経系への効果を確認するとともに本マウスで特異的に蓄積するグリコサミノグリカンの測定方法を開発した。

2. ボンペ病に関して

ヒトボンペ病のiPS細胞を用いて心筋肥大のメカニズムを検討した。また抗ヒトCD3抗体(Otelixizumab)によりボンペ病の酵素補充療法における酵素製剤に対する免疫寛容導入が出来る事をマウスで明らかにした。

3. ファブリー病に関して

MLPA法, cDNA解析でエクソン上に変異のないファブリー病患者で新規遺伝子変異を明らかにした。

4. 多発奇形, 発達遅滞に関して

マイクロアレイCGHおよびエクソーム解析を診断に応用した。